

会長講演

泌尿器科領域を中心とする高圧酸素療法

中田 瑛浩

(山形大学医学部泌尿器科)

高気圧酸素療法 (OHP) が放射線障害を受けた組織の修復に有効なことが若干の臓器で知られている。放射線障害の病理所見は臓器により異なるが、小動脈の閉塞とそれに伴う組織の繊維化、壊死が中心である。絶対圧 2 気圧の OHP 処置を動物に行うと、小動脈の収縮に関与するコラーゼン、非コラーゼン蛋白質代謝が低下する。そのため小動脈が開大して虚血状態が改善されると演者は推測している。臨床的には OHP は放射性膀胱炎のみでなく放射性腸炎にも有効である。(Nakada T et al: Dis Colon Rectum 36: 963, 1993) プロスタグランジン (PG) E₁ は微小血管の病変を改善することが知られており、OHP とともに PGE₁ を投与すると症例により放射線膀胱炎を著しく改善する。シクロフォスファミド投与も重篤な出血性膀胱炎を生じることがある。OHP はこの病変にも有効である。無症候性血尿は糸球体性血尿と尿管管性血尿に大別される。OHP はどちらの血尿により有効なのかは正確には断言できないが、前者により有効な傾向があり、和漢薬 (紫苓湯) の併用は更に止血効果を増加させる。イレウスに対しては早期の OHP で麻痺性イレウス、癒着性イレウスとともに有効である。泌尿器科領域では中高年患者が多いが、OHP の早期開始ほど治癒成績は良好である。有効率は 78% である。尿路手術を含めた難治性創傷には OHP が有効な症例が認められる。創の殺菌効果と肉芽の発育を促集するためと推測される。絶対圧 2 気圧の OHP が動物の副腎皮質機能を亢進することを確認して以来、上記の条件下で OHP 療法を臨床に応用してきた。原発性副腎皮質機能不全患者の多くで、ステロイドの補充が不要となったり、ステロイドの長期間内服している患者でステロイド離脱が可能となったなどの症例を経験した。